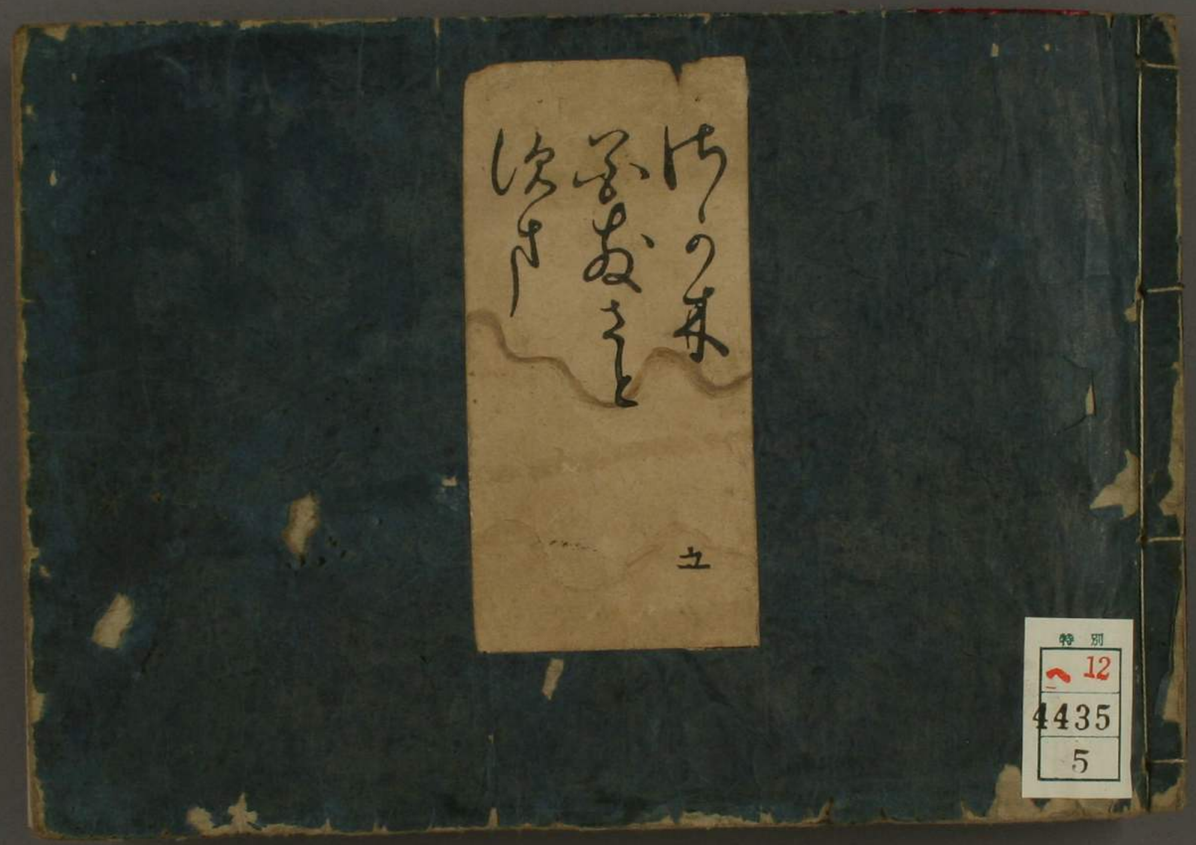
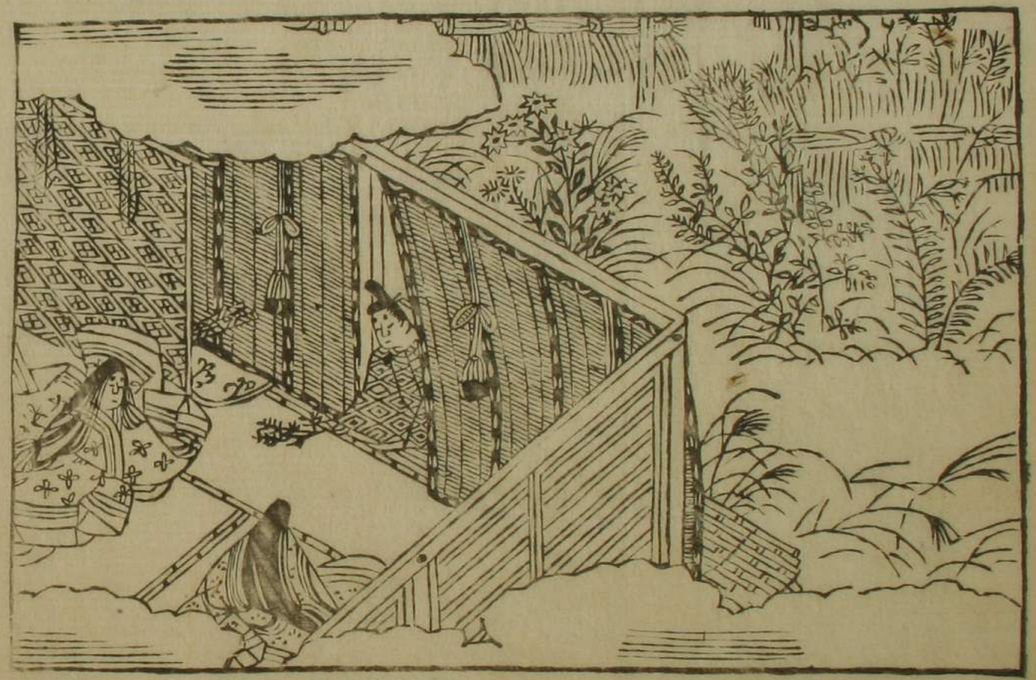
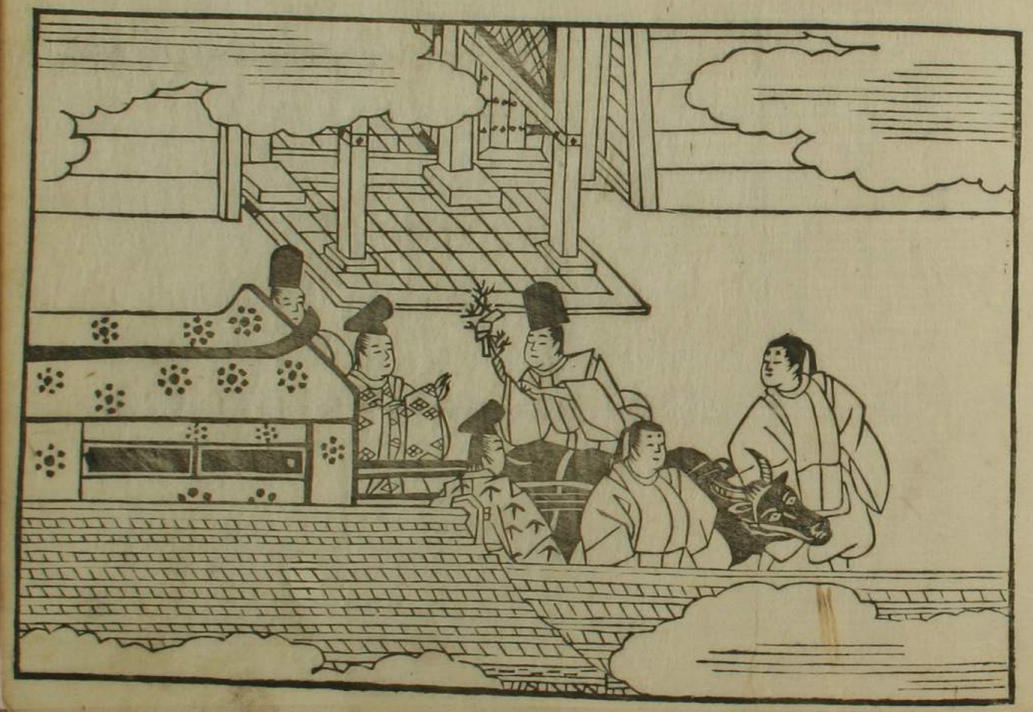


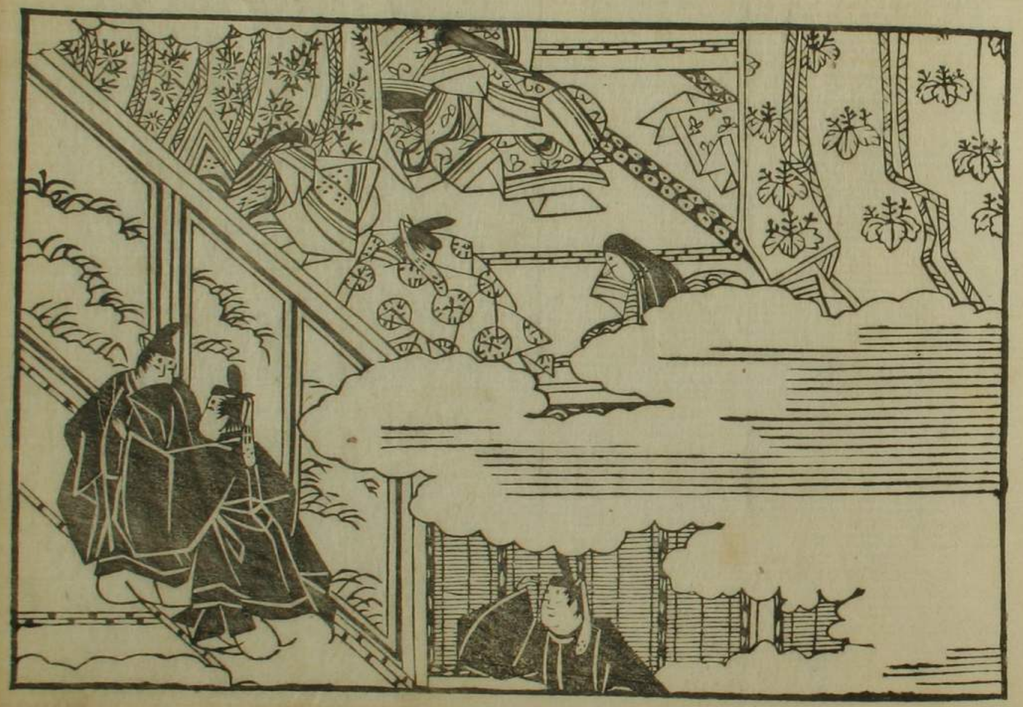
特別
12
4435
5

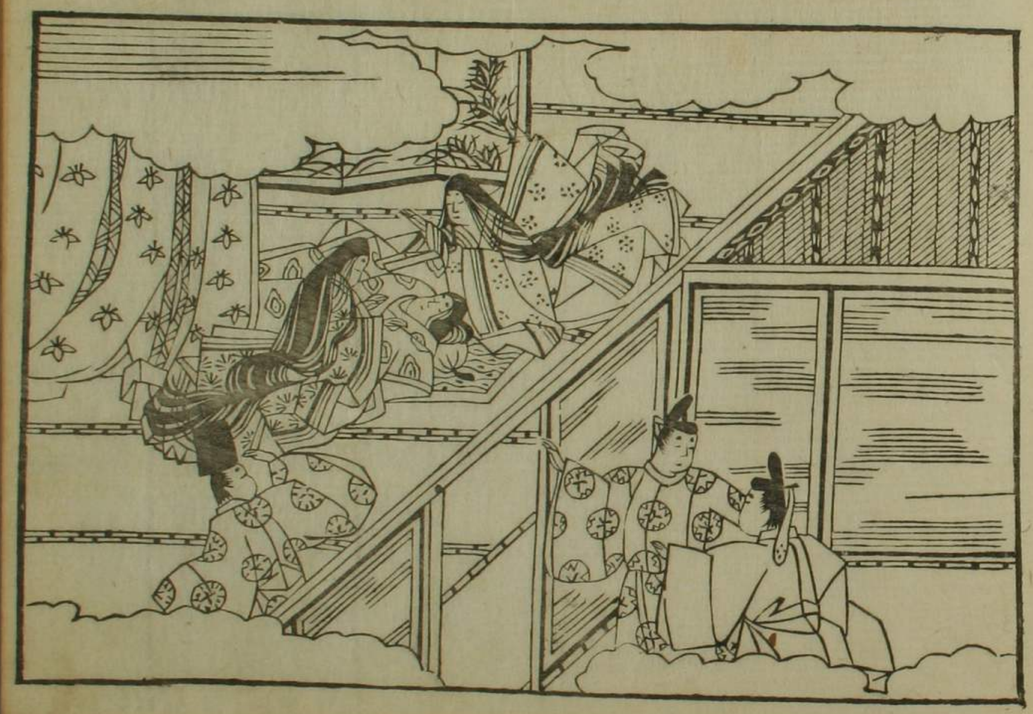
門 へ 12
號 4435
卷 5

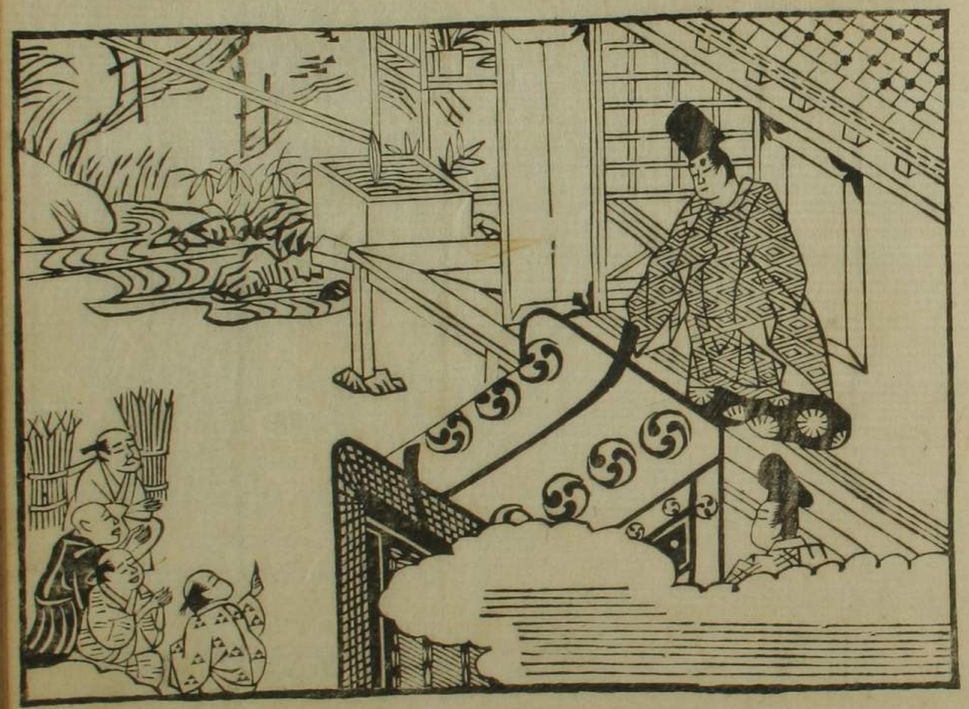
昭和 年
月 日
購求

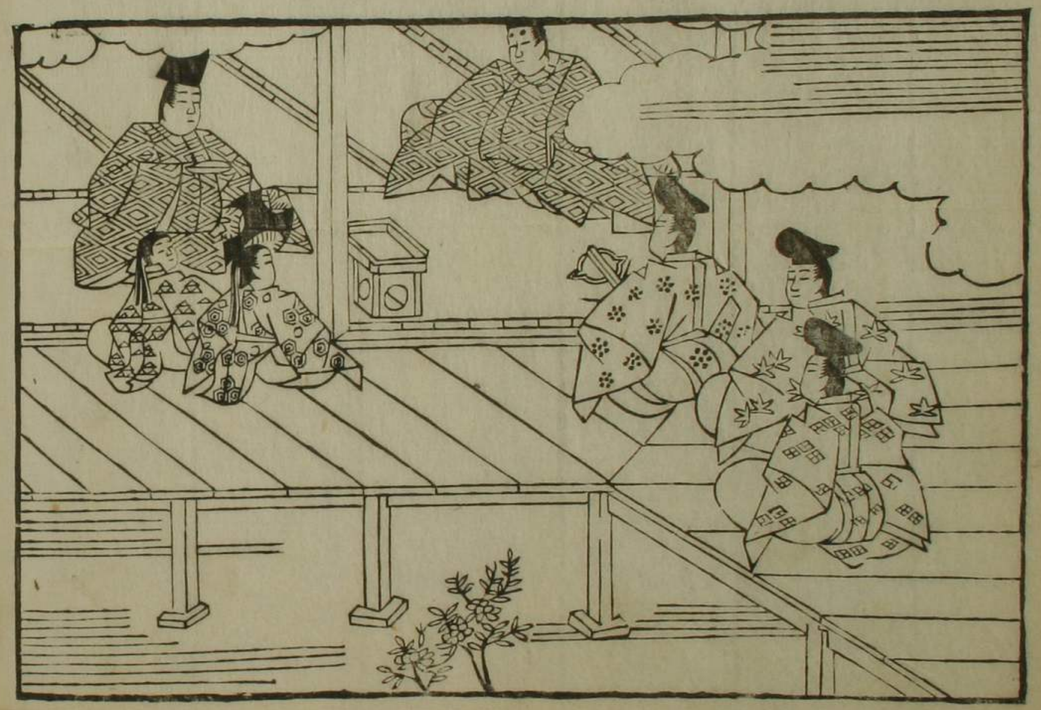


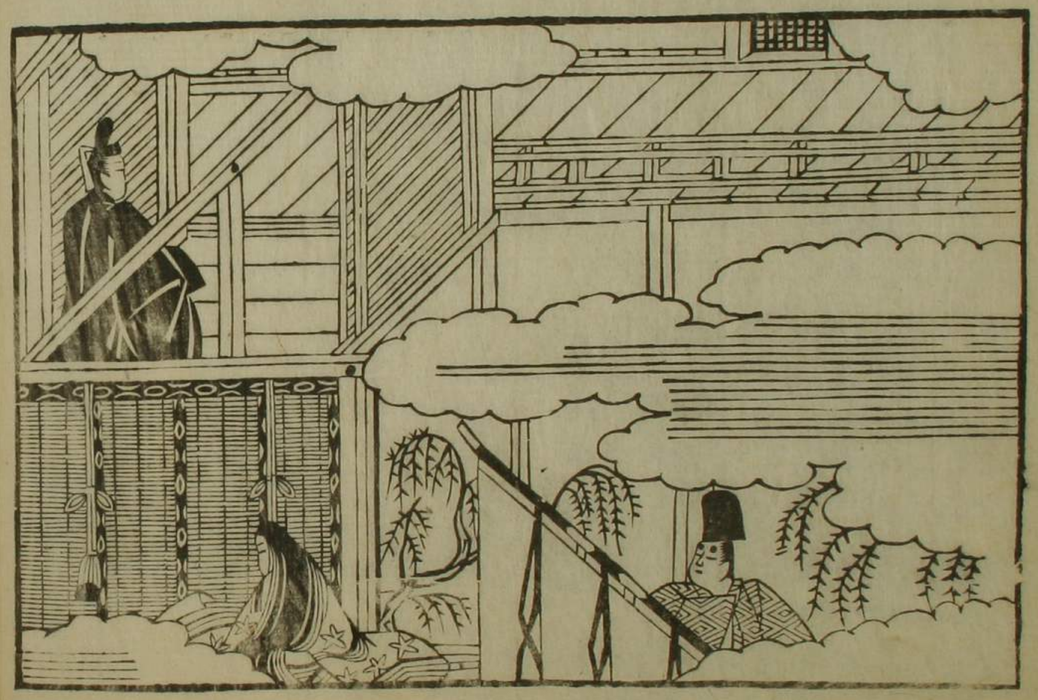


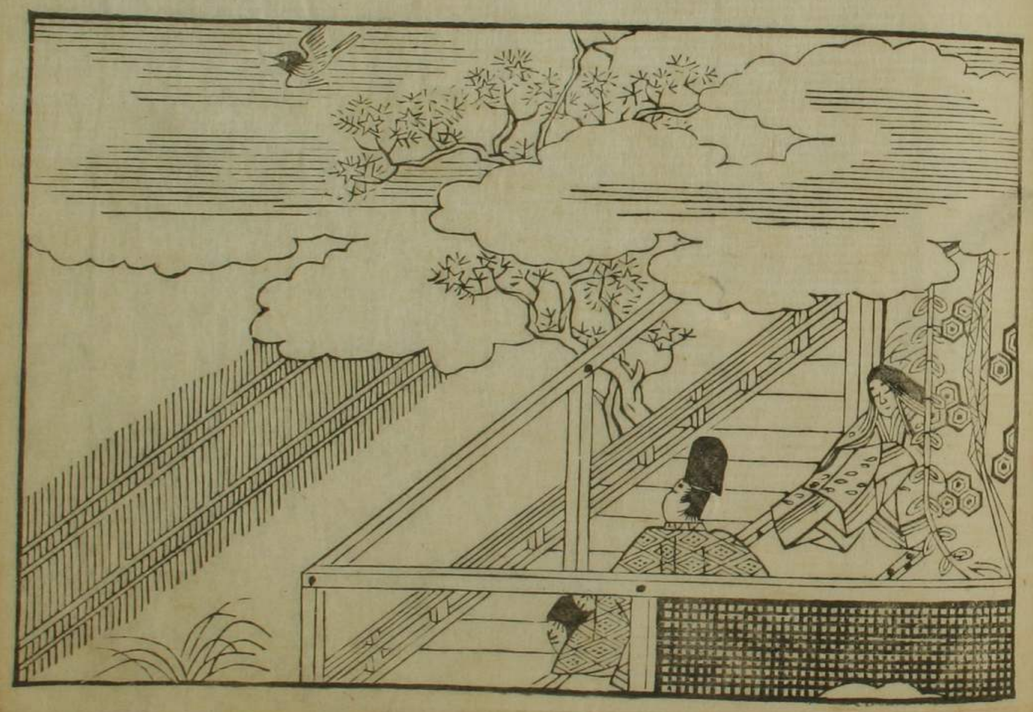






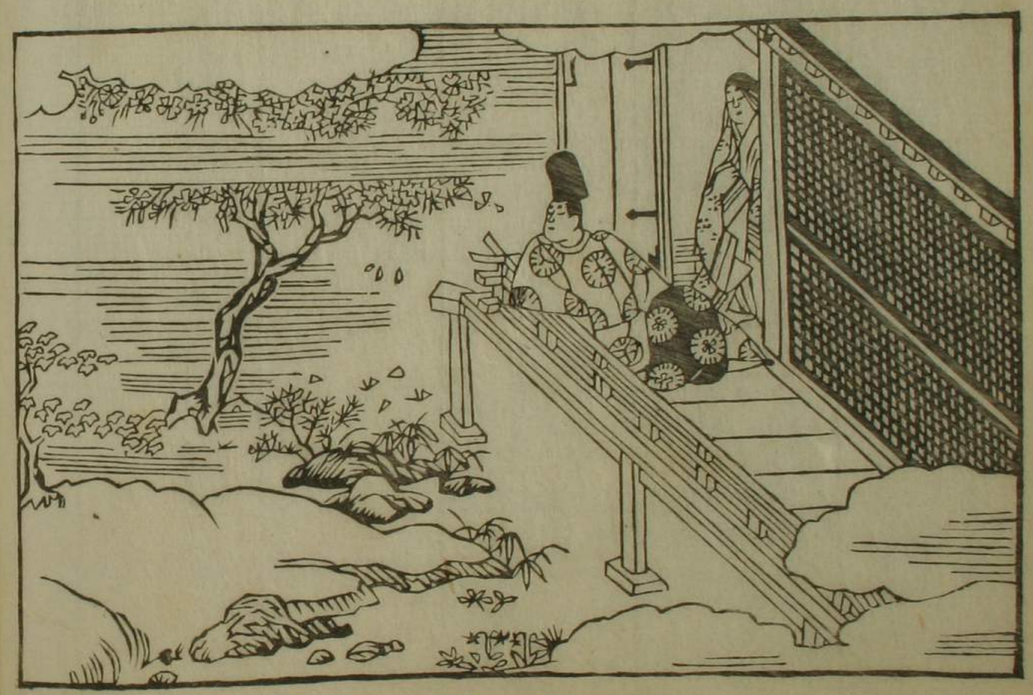


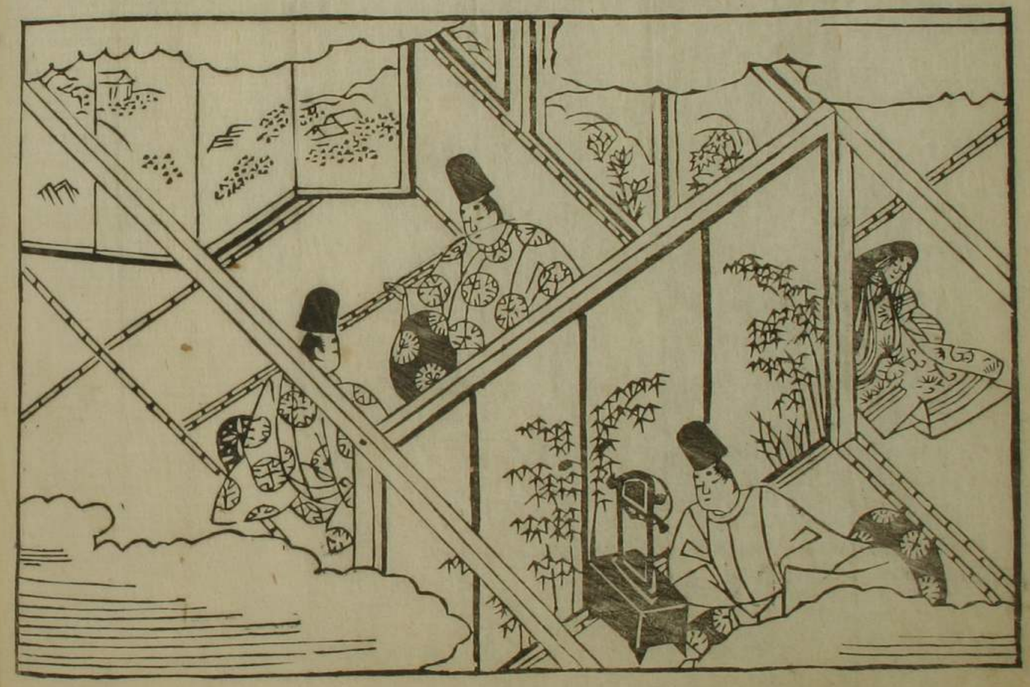


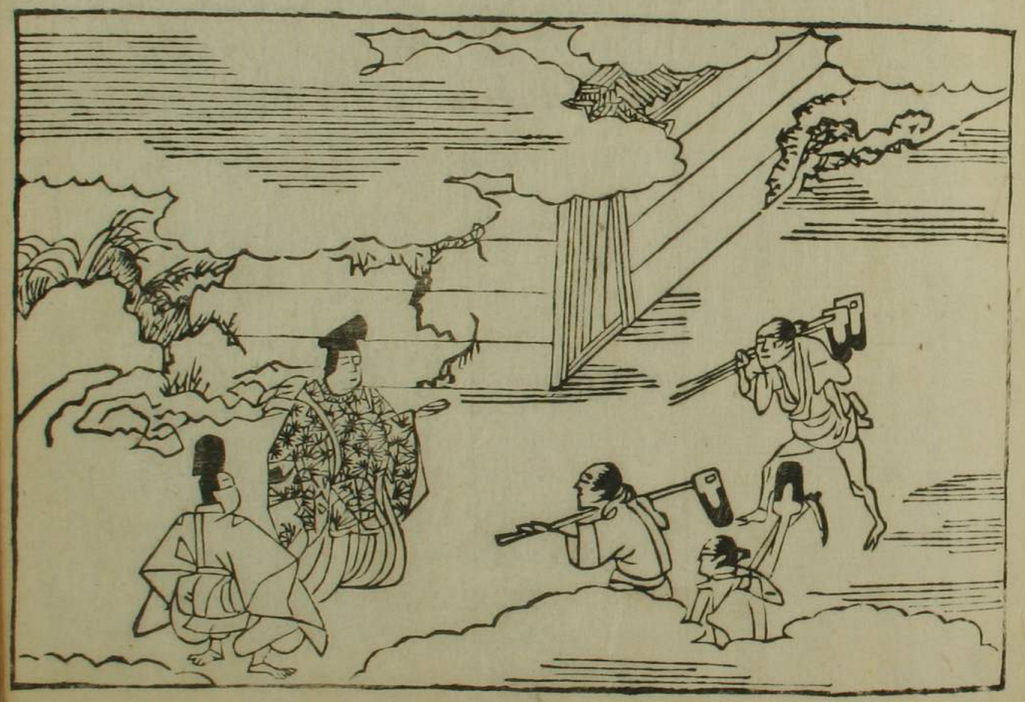


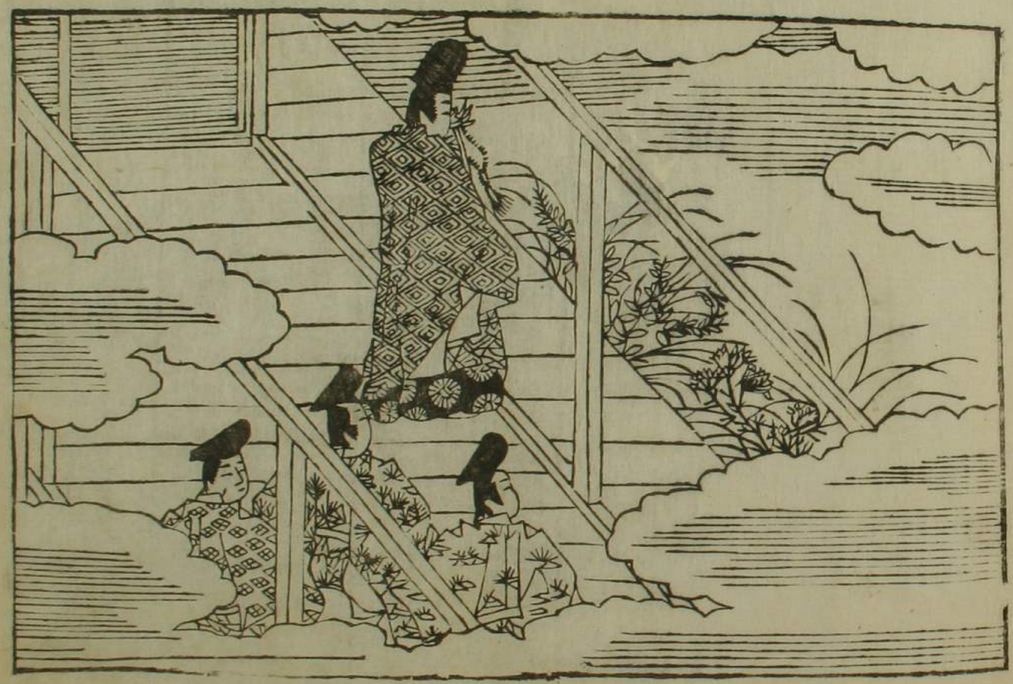
源氏廿五ノ三月より次ノ年迄

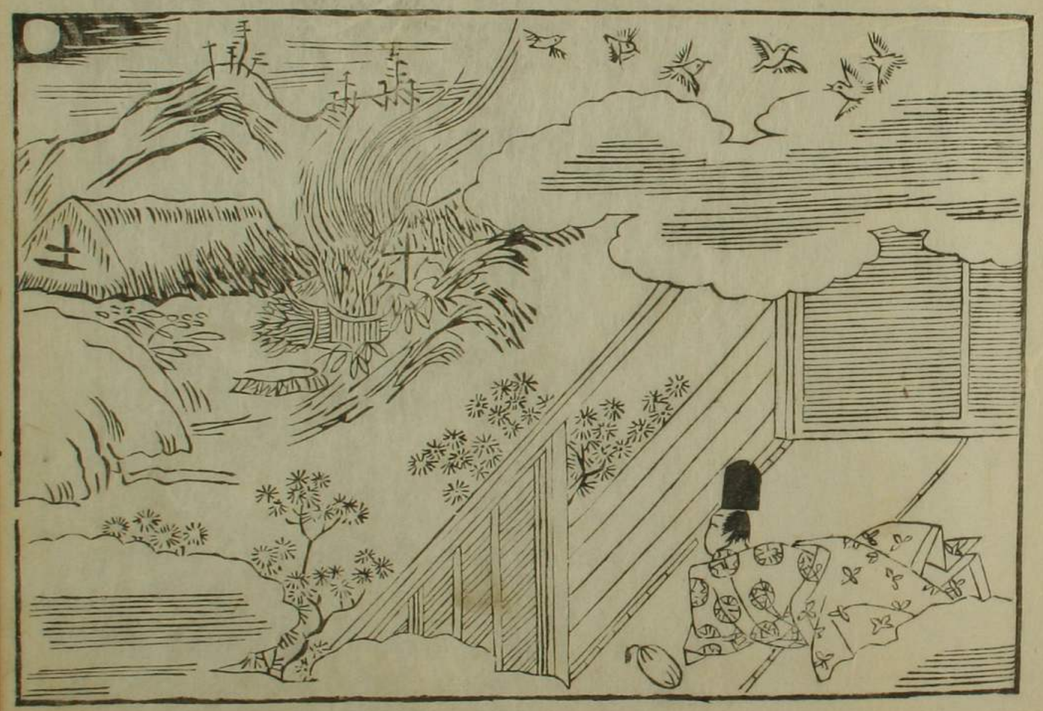
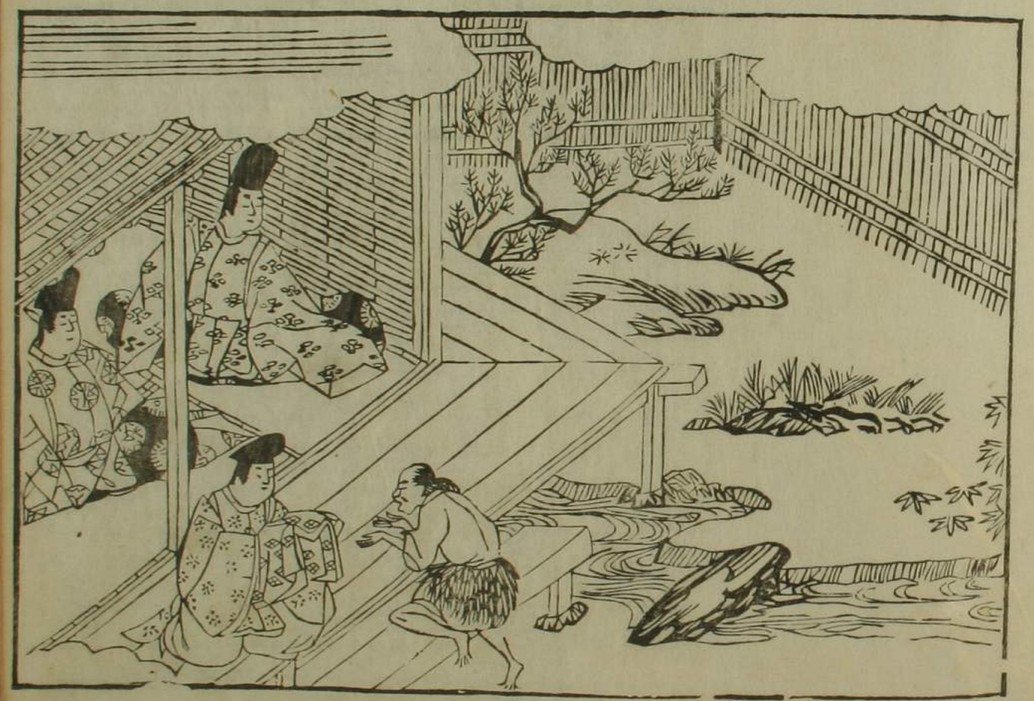
其中いとうづくしくうしくなきこ
しのこまきれど。せめて思ふずがな
ふありへてもこれより聞きることも
やとおぼしなりぬ。かのすきはむかし
こそ人にすこうすぐしも有られ。軍ゐる
いと罪ぐるれ四をぐくて。あさ此家
ぐよまれまれどゆのあつぐ人さげく。
ひこけさんすきのはいとかいなる
ぶしさりとて。都をとをぎらんも。
みるきとおぼつかなくべきを。人ころ
こそ見しみぐるに。よろげのことは
うらもしたふ思ひつぐけなつよなし
きしいやさ面ぐなりうき物と云
すてつる也も。今をすみなれなん
しをおぼすまは。いとしてがてきこ
おしおかうる中にも。姫君の明くれ











ゆるまぐこれにしまりありと。
ひとりごちまく
(係)いびきのやうぢよけれもまよひ
なん目のふくまくんこともたづね。
こひとりごち給ふ。例の内ごろ
まれぬ曉の事に。なぞ以前
(係)そも千馬りろうしまなく晩
そひとりぬ笑の家(とこ)もとのしし。
まぐおきたるへもなそれぞ
返しくひとりごちてふしまり
(係)おふくはてうづさりて。はぬん
すなどしまも。めづらしたしのやう
に。めでたくのしおぼしなへだ。えん
ふなりすてば。なよあらさ(私ノ様ニ)ぬ
ものえおざりなり。あらしぬ所ハ
そぐたひけるけどなれぞ。